

ま え が き

大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、東西 50.8km、南北 24.4km、面積 502.39km² と広い市域を有しています。周辺部には山々が連なり緑豊かで、これらの山々を縫うように県下の二大河川であり本市主要水源でもある大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいます。また、気象は瀬戸内海気候に属し、温暖で、自然条件に恵まれた地域です。

本市の水道事業は、大正 14 年に水源を大分川伏流水として事業に着手し、昭和 2 年に給水を開始しました。以来拡張事業を重ね、現在は 8 浄水場から給水しています。水源は表流水が 97%、残りは地下水となっています。本市の水道事業は、昭和 2 年に給水を開始して以降、主要浄水場をはじめ配水池や管路など水道施設の整備拡充の推進、ななせダム（大分川ダム）建設事業への参画など、安定給水の確保に取り組み、令和 4 年度の給水普及率は 99.84% に達し、市内広域に水道水を供給しています。

水道事業を取り巻く環境は、近年大きく変化しており、本市の人口は平成 28 年度をピークに減少に転じ、すでに人口減少社会を迎えました。今後、水道料金収入の減少も懸念される一方で、高度経済成長期や水道事業拡張により、大量に整備した管路や施設の老朽化が進行しており、更新需要増による経費の増加が見込まれます。これらの課題や、環境保全への社会的要請に対応するために、本市では「大分市上下水道事業経営ビジョン」を策定し、将来にわたる持続可能な水道事業を目指しています。

本市水道事業における水質管理は、上記ビジョンを踏まえ、水源流域の関係機関との連携を図ると共に、自己検査体制の長所を活かし、水源から給水栓水までの水道システム全体を一元的に管理しながら浄水処理に関する調査・研究や運転指導も積極的に行い、安全で安心して飲める水道水を提供し続ける体制の充実を図っています。

本水道水質管理年報は、令和 4 年度に本市が実施したこれらの水質管理にかかる水質試験の結果を取りまとめたものです。

本書が、関係各位においてご活用いただければ幸いです。